

KANEKA

カガクでネガイをカネイル会社

貿易プラットフォームの利活用促進に向けた 第二回検討会用発表資料

2023年12月11日

株式会社 **カネカ**

物流Strategic Unit

カネカの輸出に関する特徴

1. 海外グループ会社とのグループ間の輸出取引は限定的であり、大部分は、海外顧客向けである。
2. 比率的には間接貿易が多いが、直接貿易もあり。
3. 製品が、汎用樹脂、特殊樹脂、繊維、電子材料、医療器、太陽電池、食品等、多岐にわたっている。
4. 船社予約、貿易書類作成等の輸出実務の大部分は、自社で実施している。

輸出業務改革

全社の業務DXの推進の中で、2020年より輸出業務改革をスタート。狙いは、業務効率化・対応スピードアップ・顧客満足度向上

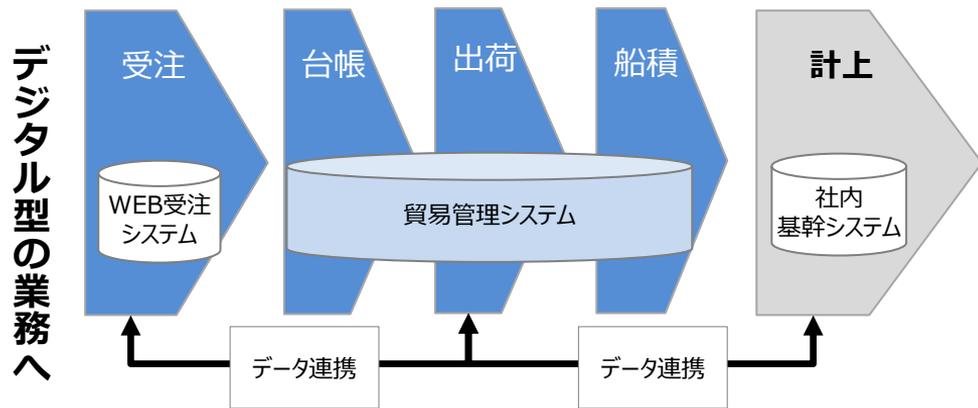
解消しようとした課題

1. 製品ごとの業務運営、担当者毎に属人化した業務フロー。
2. 船積み計画、船腹予約、入金管理等は、EXCEL等で管理され、確認、問合せ、集計、転記等が頻繁に発生。
3. 共通の情報管理基盤がない為、Key情報であるInvoice#、船名、仕向国/仕向港、ETD等が、個々人手持ち。

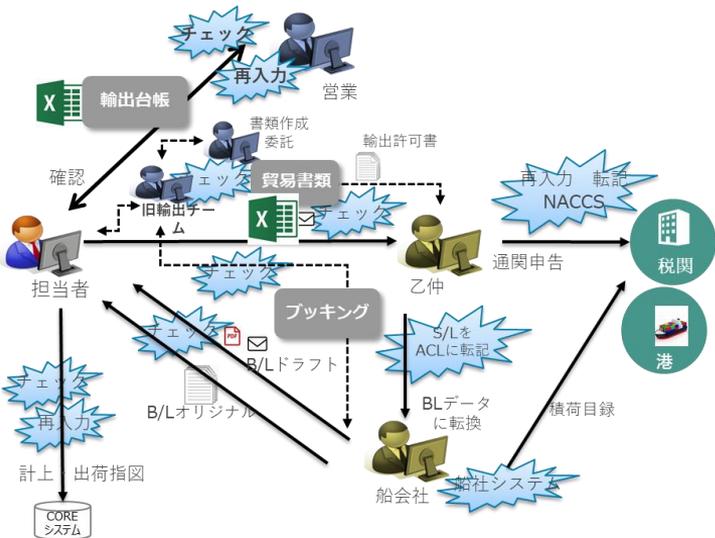
取組みの進捗

2021年 事業部門毎で実施していたデリバリー業務を物流部門に機能集約。

2022年 貿易管理システム開発開始 ⇒ 2023年8月より樹脂系製品にて稼働開始、
今後、順次、他製品を貿易管理システム活用へ移行させる予定。

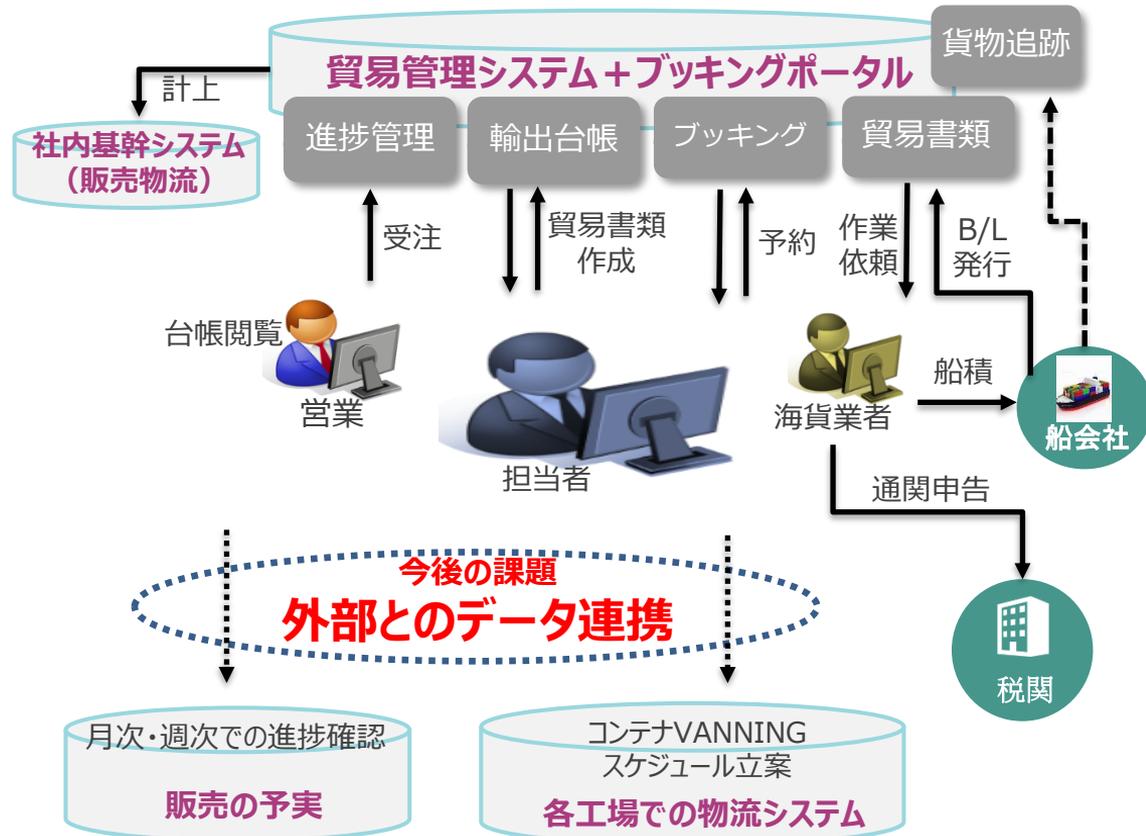


改善前 業務のイメージ

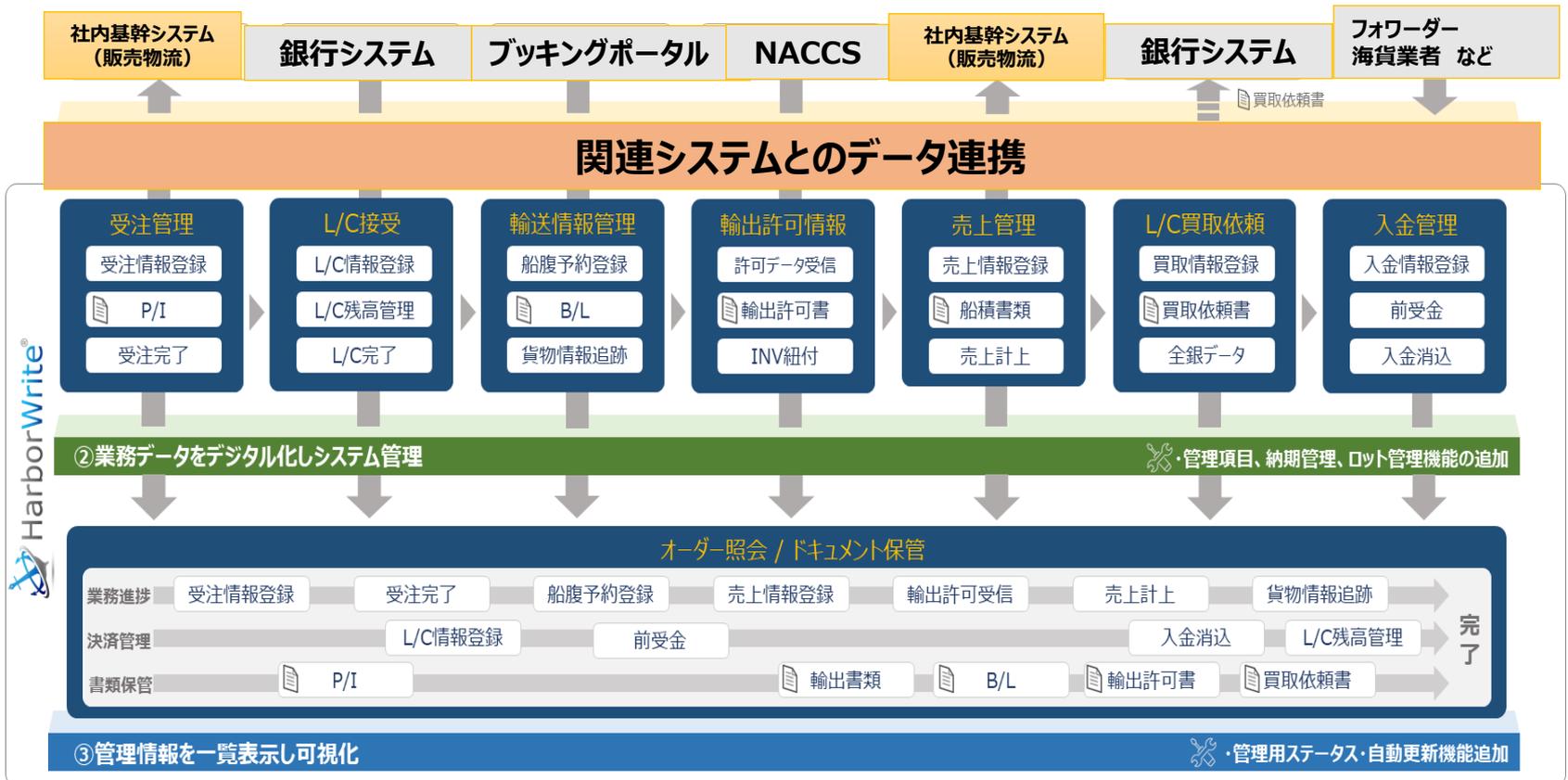


- ・事業部門毎（10事業）に独自で構築され運用。
- ・輸出台帳、ブッキングの方法などは、製品毎に全て違っていた。
- ・基本、全てがバケツリレー方式。

改善後 業務のイメージ



受注から入金までの貿易業務をデジタル化することで効率化・可視化を実現。



HarborWrite®

1. 貿易プラットフォームに期待する機能

自社で構築した貿易管理システムと貿易プラットフォームが繋がることで効率化を更に進めることができる。

- (1) 船社やforwarderへのブッキングポータルサイト
・・・現在導入した予約ポータルサイトSYSTEMはデータ精度が船社によってバラツキがあり、参加船社も限定的である。
 - ①各社の運航ルートやスケジュールの一元可視化
 - ②積み地でのCY OPEN, CY CUTの一元可視化
 - ③輸出後の揚げ地側(輸入地側)のFreetime条件の一元可視化
- (2) 運賃の可視化
・・・現在導入した予約ポータルサイトSYSTEMや貿易プラットフォームでは船社からのデータ取り込みが出来ない。
 - ①個別船積み毎の運賃請求書の電子取得
 - ②船社運賃のPORT-PAIR毎の運賃登録 ・・・輸送データとの紐づきによる、実績管理や見込み計算の精度UP
 - ③Collect払いでの発生Surchargeのデータ化
- (3) 船荷証券や運送状の取得 ★現状ではShipping instructionを海貨業者がNACCSを介してACLへ転記作業。
- (4) 運賃交渉機能のデジタル化
- (5) 貨物追跡機能の精度向上

2. 貿易全体での変革（他産業との連携）

- (1) LC機能の運営電子化 …銀行との連携
- (2) 銀行などの金融機関も参加した形の貿易書類（BL、LC、保険証書）の電子化 ……ブロックチェーン
- (3) 商工会議所(日本商工会議所／EPA特恵、東京および大阪商工会議所／一般)の原産地証明書の電子取得
- (4) 海上保険付保の電子化

カガクで
ネガイを
カナエル会社

KANEKA